

ヤマハハコ

Anaphalis margaritacea

キク科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。長い地下茎がある。茎は直立し普通分岐せず高さ 30～70cm。葉は互生、狭披針形、長さ 6～9cm、やや厚く、3 脈があり、裏面には灰白色の長い綿毛を密生し、質が厚い。花期は 8～9 月。枝の先に多数の頭花を散房状につける。雌雄異株。頭花は径 5mm。総苞片は乾膜質で上半部は白色。花冠は筒状で淡黄色。そう果に冠毛がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州（中部以北）；中国、ヒマラヤ、ロシア（サハリン）、北アメリカ、ヨーロッパ（帰化）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺を含めた生育環境の保全に加え、競合する植物の刈取りを行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	0	0	0

判定基準

D



（執筆者：奥田重俊）

ユキヨモギ

Artemisia momiyamae

キク科

伊豆諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。茎や葉、総苞片、花穂と全体が白毛で密に覆われ、白さが際立つ。葉は羽状に深裂し、裂片はヨモギより幅広い。花期は 8～9 月。頭花は黄褐色で幅の広い筒状をしており、中央に両性花があり、周囲を雌花が囲む。ヨモギとの交雑種イナムラヨモギは変異が大きく、本種との区別点は不明瞭である。全体的に白っぽく下部に緑がかった葉が混在する個体、白毛が多く裂片の幅が狭い個体、裂片が幅広く葉表面がやや緑色の個体などがある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（三浦半島、伊豆半島）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い路傍などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

日当たりの良い環境を維持することに加え、草刈りによって刈取られることがあるので、草刈りなどの管理を行う際には注意することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島，2012e.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

（執筆者：石橋正行）

タウコギ

Bidens tripartita

キク科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

一年草。茎は無毛またはまばらに毛があり高さ 20～150cm。葉は対生し、やや翼のある柄があり、3～5 裂する。花期は 8～10 月。頭花は花柄に上向きに咲き、はじめは径 7～8mm、のちに径 25～35mm となる。外側の花床の鱗片は長楕円形。舌状花はない。両生花の花冠は長さ 4～4.5mm。そう果は 4.5～8.5mm で下向きの刺があり、芒は 2 個。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島；アジア、ヨーロッパ、オーストラリア、北アフリカの温帯から熱帯

【伊豆諸島における生育環境】

ため池の水際や湿地、水田などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

農地やその周辺に生育する場合は、自生地の保全に配慮した農作業を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

イズハハコ

※備考 (p. 213)

Conyza japonica

キク科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

一年草または二年草。全体に灰白色の軟毛が多い。茎は高さ 30～50cm。葉は下部にややロゼット状に集まり、花時にも枯れず、長楕円形で円頭、基部は有翼の葉柄となり、両面に軟毛がある。中部の葉は長楕円形で基部は茎を抱く。花期は 4～6 月。頭花は茎の先に密に集まる。総苞は長さ約 5.5mm。花冠は細い。そう果は扁平で、まばらに毛がある。冠毛は汚白色を帯び、綿毛状。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島；中国、マレーシア、インド、アフガニスタン

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い崖に生育するが、個体数は少ない。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道沿いなどに生育することから、自生地の保全に配慮した道路管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

ハマサワヒヨドリ

Eupatorium lindleyanum var. *yasushii*

キク科

伊豆諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。葉は対生か、ときに3輪生で、5行脈を持ち、鈍頭でほとんど無柄。茎と葉下面脈上に開出した白軟毛が密生する。本土の湿地に自生するサワヒヨドリに比べて、草丈が低く、茎の節間も短く、葉が厚い。花期は7～8月。本種が初めて確認された千葉では、海岸の崖地の強風が吹き抜ける草地に生育する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（千葉、神奈川）

【伊豆諸島における生育環境】

低標高の海岸に近いススキ草地や路傍から、高標高の山地の路傍やススキ草地まで、やや乾いた草丈の低い明るい草原に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の草地が高茎草本で覆われないように適度なく乱管理を与えることが望ましい。自生地に近接して崩壊地や伐開地などが生じた場合、自生地が拡大する可能性もあるので、自然の遷移の進行を注意深く観察する必要がある。

【関連文献】

神奈川県植物誌調査会（編）、2001；七島花の会 神津島、2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	2	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E+ACD



© 七島花の会

（執筆：八木正徳）

アキノハハコグサ ※備考 (p. 213)

Gnaphalium hypoleucum

キク科

伊豆諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

一年草。茎は高さ30～60cmとなり、上部で分枝し、白い綿毛がある。葉は披針形で、長さ4～5cm、基部はなかば茎を抱いている。裏面には密に白い綿毛があるが表面は緑色。花期は9～11月。花は散房状に多くの頭花をつける。総苞片は5列で淡黄色、花が終わると開く。外片は短くて白毛がある。そう果の冠毛は汚白色。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、東南アジア、インド

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）、1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

（執筆：加藤英寿・奥田重俊）

ヤマアキノノゲシ

Lactuca aogashimaensis

キク科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

ヤマニガナとアキノノゲシとの雑種で両者の中間形を示す。茎と葉には毛がまったくなく、葉は菱状倒卵形で縁に切れ込みがなく、質が厚く表面に光沢がある。そう果はよく結実し、両面には3肋がある。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

林縁や日当たりの良い草地に生育するが、稀である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現状では1つの島以外では記録されていないが、今後確認される可能性がある。

【関連文献】

Kitamura, S., 1942; 勝山輝男ら, 2011.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D

No image

(執筆者: 奥田重俊)

ムラサキニガナ

Lactuca sororia var. *sororia*

キク科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は高さ60～120cm、中空で無毛。葉は下部のものは羽裂するが、上部のものは小さく披針形。葉の上面は緑色、下面はやや白みがかった淡緑色。花期は6～8月。頭花は狭い円錐花序に多数つき、下向きに咲き、径1cm。総苞は長さ1～1.2mm、内片は7～8個。そう果は長さ3～3.5mm、黒くて細肋があり披針形、冠毛は白色。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；中国（中部）

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内の倒木などにより発生したギャップや崩壊しやすい斜面に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

種子が風散布型の植物であるため移動性が高く、現状の自生地以外の場所においても、生育に適した環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

No image

(執筆者: 奥田重俊)

ケムラサキニガナ

Lactuca sororia var. *pilipes*

キク科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 60 ～ 120cm、葉形や花序、花の形態など全体はムラサキニガナと同じであるが、花柄に腺毛がある。花期は 6 ～ 8 月。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；中国（中部）

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内の倒木などにより発生したギャップや崩壊しやすい斜面に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

種子が風散布型の植物であるため移動性が高く、現状の自生地以外の場所においても、生育に適した環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981；七島花の会 神津島，2011a。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

(執筆者：奥田重俊)

ヤマタバコ

Ligularia angusta

キク科

伊豆諸島

DD

環境省

CR

【形態・生態】

多年草。茎は叢生し細長く、高さ 1 ～ 1.3m に達する。根出葉は直立し、葉柄の上部は翼があり、葉身は卵状長楕円形で無毛。花期は 5 ～ 6 月。花序は長さ 30cm、舌状花弁は黄色、普通 3 枚あり、楕円形で長さ 4 ～ 5mm。筒状花は 5 ～ 6 個。そう果は長さ 5 ～ 6mm、さび色の冠毛がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東、中部）

【伊豆諸島における生育環境】

やや湿った草地に生育するが、個体数は少ない。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道沿いなどに生育することから、自生地の保全に配慮した道路管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者：奥田重俊)

コウヤボウキ

Pertya scandens

キク科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

落葉性の小低木。高さ 60～100cm。一年生の枝は卵形の葉をつける。9～10月ごろ、枝先に頂生する頭花をつけ、上向きに咲く。二年生の枝は各節に3～5枚の細長い葉を束生し、基部から3脈が出て圧毛がある。頭花には13個内外の小花があり、長さ15mm。花冠は白色で深く5裂する。そう果は長さ約5.5mmで密に毛がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州；中国

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良いやや乾燥した林床に多く生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

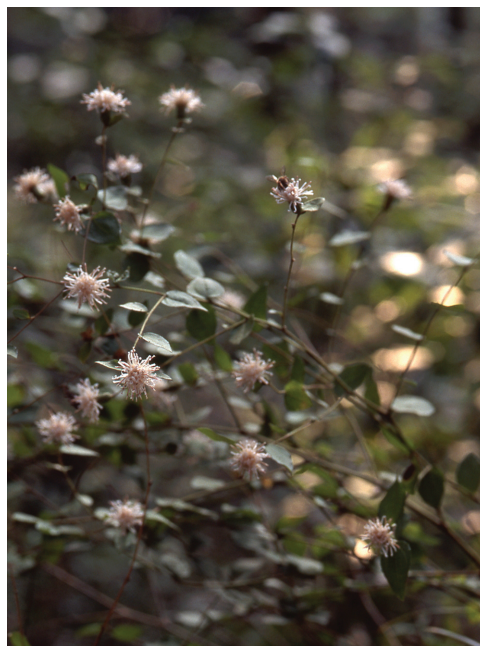
～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



（執筆：奥田重俊）

シュウブンソウ

Rhynchospermum verticillatum

キク科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は短い。茎は高さ50～100cm、粉状毛があり、上方で2～4本の枝に分かれて開出する。葉は長楕円形で鋭先端、膜質で両面に短い剛毛があり、長さ7～15cm、幅17～32mm。花期は8～10月。頭花は葉腋から出る短い小枝に頂生し、黄緑色、径4～5mm。総苞は広鐘形。舌状花のそう果の先端は嘴があり、筒状花のそう果は嘴がない。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島（南部）、中国、東南アジア、インド

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内のやや湿った林床や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林縁の草刈りを行うことが望ましい。また、目立たない植物のため、園芸目的の採取のおそれは少ない。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



© 寺尾博

（執筆：奥田重俊）

ミクラジマトウヒレン

Saussurea triptera var. *mikurasimensis*

キク科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ 40 ～ 80cm。花期は 8 ～ 9 月。頭花は紫色で、散房状または総状花序。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地の明るい林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

踏みつけや登山道の工事などが脅威となる。植生遷移の進行も脅威であり、自生地によっては、植生遷移を進行させない措置を検討することが望ましい。

【関連文献】

神奈川県植物誌調査会（編），2001；教育委員会『フィールド図鑑―御蔵島の植物・動物』制作部会，2007。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 日野正幸

(執筆者：上條隆志)

タムラソウ

Serratula coronata subsp. *insularis*

キク科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ 30 ～ 140cm。下部の葉には長い柄がある。茎葉は羽状に全裂し、質はやや薄く、両面に細毛がある。花期は 9 ～ 10 月。頭花は紅紫色で、長い枝の先に上向きに咲き、径 3 ～ 4cm。総苞片は 7 列で鋭尖頭。小花は長さ 2 ～ 3cm、外側の小花は不稔で中の小花は両性で稔性。そう果は 1cm ほどの冠毛がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定することに加え、自生地の環境を現状のまま保全することが望ましい。また、花が美しいために園芸目的の採取のおそれがある。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者：奥田重俊)

ハチジョウナ

Sonchus brachyotus

キク科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は直立し高さ 30～100cm。葉の裏面粉白色で基部は茎を抱く。花期は 8～10 月。頭花は黄色、径 3～3.5cm。総苞は長さ 1.6～2cm、密に綿毛をかぶる。全て舌状花よりなり、花冠は長さ約 2mm で先端に 5 歯がある。そう果は長さ 3.5mm。冠毛は長さ 1.3mm で純白。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国、ロシア（ダフリア、アルタイ）

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近の荒れ地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

海岸付近の道路工事などから自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者：奥田重俊)

ヤブレガサ ※備考 (p. 213)

Syneilesis palmata

キク科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。時に群生する。根茎は短い。花茎は直立し高さ 70～120cm、はじめ絹毛があるが、のち無毛となる。茎葉は 2～3 個、下部の葉は葉柄に楕状につく。葉身は円形で掌状に深裂し、裂片は 7～9 個、径 35～50cm、しばしば 2 中裂し、縁に不揃いな鋭鋸歯がある。花期は 7～10 月。頭花は円錐花序につき、径 8～10mm。総苞片は 5 個。小花は 7～13 個。花冠は白色で、時に淡紅色を帯び、先は 5 裂して裂片の先に短毛がある。そう果は長さ 4.5～6mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

斜面林などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する植物の繁茂を抑えること望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者：奥田重俊)

オオハマグルマ

Wedelia prostrata var. *robusta*

キク科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は長く地を這い、節から根を出す。葉は対生し、卵形で鋭頭、長さ3～12cm、幅1.5～6cm、基部はくさび形、縁はまばらに鈍鋸歯があり、両面に寝た短い剛毛が密にあり、厚い洋紙質か、やや革質。花期は4～9月。頭花はふつうは3個、径2～2.5cm。舌状花冠は長さ10～11mm。筒状花冠は長さ5mm。そう果は長さ3mm、基部はくさび形。冠毛ははじめは短い冠状で縁は裂け、剛毛があるが、熟すと1～2本だけになる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（紀伊半島）、四国、九州、南西諸島；台湾

【伊豆諸島における生育環境】

海岸の砂地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定することに加え、自生地の環境を現状のまま保全することが望ましい。また、園芸目的の採取のおそれがある。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	2	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E+ACD



© 寺尾博

（執筆：奥田重俊）

オナモミ

Xanthium strumarium

キク科

伊豆諸島

EX

環境省

VU

【形態・生態】

一年草。茎は高さ20～100cm、短毛がある。葉は互生し長柄があり、長さ5～15cm、葉身は卵状三角形で、3～5浅裂し、不揃いな鋸歯があり、やや厚く、基部は心形、両面に剛毛があってざらつく。花期は8～10月。筒状花は黄緑色。雌雄異株。果実は長卵形で、先端がかぎ状のとげがある。動物に付着して散布される。古くアジア大陸から帰化したものといわれている。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島；ユーラシア大陸

【伊豆諸島における生育環境】

人里近くの路傍や荒地に生育していたと考えられる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

再発見の際は、自生地付近の外来植物を草刈りなどにより管理を行い、草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

ヘラオモダカ ※備考 (p. 213)

Alisma canaliculatum

オモダカ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。葉は根生し、葉身の質はやや薄く、披針形で先は鋭くとがり、基部は次第に細く、葉柄に流れる。花茎は直立し、枝や小枝を3輪生し、円錐花序となる。花期は7～8月。花は各枝先に頂生し、両性花で、萼片3個、花弁は白色卵円形で3個。果実は集合果で、分果の背面に1本の縦溝がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

水田や浅い池などの水中に群生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田近くにおいて外来植物の繁茂を抑えることや自生地の水域に富栄養な水が流入することを避けることで、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 奥田重俊・畔上能力)

ヒルムシロ ※備考 (p. 213)

Potamogeton distinctus

ヒルムシロ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

浮葉性の多年草。地下茎は長く這い。水中茎は水深によって3cm～10mの長さとなる。沈水葉は披針形で明らかな柄がある。浮水葉は狭長楕円形～楕円形で長さ5～10cm、幅2～4cm、托葉は4～8cm、長柄がある。花期は5～10月。花穂は長さ2～6cm。果実は堅果で長さ3mmで背中に稜がある。地下茎の先端に殖芽を形成して越冬する。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

湖沼、ため池、河川、水路、水田などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田近くにおいて外来植物の繁茂を抑えることや自生地の水域に富栄養な水が流入することを避けることで、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；角野康郎，1994.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊・畔上能力)

タイロモ ※備考 (p. 213)

Potamogeton miyakezimensis

ヒルムシロ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

葉はササの葉と形が似る。ササバモの変種ともされている。花期は 11 月。水面上に花穂を出して小さな花をつける。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

三宅島産の個体に基づいて記載されたが、近年の記録はない。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育状況の確認が必要である。

【関連文献】

三宅島史編集委員会 (編), 1982.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

No image

(執筆者: 上條隆志)

カワツルモ

Ruppia maritima

ヒルムシロ科

伊豆諸島

VU

環境省

NT

【形態・生態】

多年生の沈水植物。地下茎が地中を伸びて、節から茎が伸びる。葉身は針状で互生し、長さ 6 ～ 10cm、幅 0.3 ～ 0.6mm、葉腋から花茎を伸ばし、その先に花穂をつける。果実は卵球形で黒色。

【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島; 世界中に広く分布

【伊豆諸島における生育環境】

浅瀬に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育状況の確認が必要である。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	1	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E



(執筆者: 上條隆志・加藤英寿・大場秀章)

アマモ

Zostera marina

アマモ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。沿岸の砂泥地に生育する海草。根茎は横に這い、先端から葉と花序とをつける枝を出し、多数の花序をつける。葉は2列に互生し、扁平で長さ50～100cm、幅3～5mm、5～7筋の脈がある。膜質の托葉がある。花期は4～5月。花序は長さ約10cm、全縁の葉鞘に包まれる。雄花雌花が交互に2列に並ぶ。花被はない。種子は楕円形、長さ約5mm、黒褐色で堅い。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；北半球の寒帯から温帯

【伊豆諸島における生育環境】

水深1～10mの海底の砂泥に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が浅い湾内の場合、船の出入りの際に自生地を避けるなどの配慮をすることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 海辺つくり研究会

(執筆：奥田重俊)

ホンゴウソウ

Sciaphila japonica

ホンゴウソウ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

多年生の腐生植物。地上茎2～6cm。茎はやや透明感がある紫褐色で、鱗片は赤褐色。茎は途中で不規則に枝分かかれし、先端に雌花が1個つく。花期は7～9月。花序の上部は雄花で、幅広い花被片が垂れ下がり6裂し、うち3個はやや小さい。小さい裂片1個は先が細長く、先端に球形の付属体を持つ。雄花の雄しべ3個は合着し、葯隔から細い突起が上向きに3個伸び、3個の葯はやや円形状に並ぶ。葯側面が横裂し、こぼれ落ちた花粉で花被片までクリーム色になる。雌花は花被片が星型に6裂して心皮が球状に集合し、側面につく花柱は伸び上がる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内の湿潤な林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

広範囲に点在するが、個体数が少ないため、生育状況をモニタリングすることが望ましい。

【関連文献】

牧野富太郎，1961；七島花の会 神津島，2012d.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	1	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

(執筆：石橋正行)

ウエマツソウ

Sciaphila secundiflora

ホンゴウソウ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

多年生の腐生植物。地上茎 5 ～ 10cm 前後、茎は透明感のある薄いこげ茶色。花期は 6 ～ 7 月。雌花の花茎は短く、茎上にジグザグに並ぶ。雌花の花被片は 6 裂し、多数の心皮が集合し球状になる。心皮は中心から先端に向いやや細長く円柱状に広がり、やや平らな側面に 1 ～ 2 個の花柱を持つ。花柱には多数の小さな突起が縦に 4 ～ 5 列並び、花被片に近い後方側面から出始める。3 ～ 6 個の雌花の先にほぼ同数の雄花が、まばらに、または密集してつく。雄花の花被片は 6 裂し、細い被針形で紫褐色。雄花中央の雄しべ 3 個は基部で合着し、先端の葯が三角形状に並び、上端が横に裂ける。

【分布の概要】

伊豆諸島、小笠原諸島、本州（中部以南）、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内の湿潤な林床に群生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が少ないため、自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2010f.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



©七島花の会

(執筆: 石橋正行)

ヤマラッキョウ

Allium thunbergii

ユリ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。鱗茎は細い卵形で外皮は灰白色。花茎は高さ 30 ～ 60cm。葉は、円筒形、中空で、断面は鈍三角形。花期は 9 ～ 10 月。花茎先端に紅紫色の多数花を球状の散形花序につける。花被片は 6 個。雄しべは 6 個で長く突き出る。さく果は倒心形。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（福島以南）、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地での植生遷移の進行を抑えることにより、自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 奥田重俊・畔上能力)

アマナ

Amana edulis

ユリ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。鱗茎は広卵形で長さ3～4cm。葉は2枚、線形で主脈に沿って白斑が入る。花期は3～5月。花茎は長さ15～20cm、先端に白地に紅紫色の脈が入る花を1個つける。雄しべは6個で花被片より短い。花茎の中程に2個の苞がある。さく果は円形で三稜がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（福島以南、石川以西）、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

耕作地周辺の土手や路傍などの草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地での植生遷移の進行を抑えることにより、自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊・畔上能力）

クサスギカズラ

Asparagus cochinchinensis var. *lucidus*

ユリ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は短く、根は紡錘状。茎は高さ1～2m、上部は他の植物などにかからんで伸び、太い枝の葉はとげ状になる。葉状枝は葉腋に1～3個束生し、線形で湾曲する。雌雄異株。花期は5～6月。花は葉腋に2～3個つき、黄白色、鐘状の漏斗形で長さ3～4mm。花柄の中部に関節がある。液果は球形で汚白色に熟す。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島；台湾、朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

主に海岸付近の茂みや林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

海岸付近の道路工事などから自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	3	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 寺尾博

（執筆：奥田重俊）

ウバユリ

Cardiocrinum cordatum

ユリ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 60～100cm。葉は茎の下半分に数個集が集まってつき、卵状長楕円形で基部は心形、網状脈で長い柄がある。花期は 7～8 月。緑白色の筒状花を茎頂に水平に 1～8 個つけ、長さ 7～10cm、半開する。花被片は倒披針形で緑白色、内面に淡褐色の斑点がある。雄しべは 6 個、長さ不同。さく果は楕円形、上向きとなる。種子は扁平で風で飛散する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（宮城、石川以西）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内で草刈りなどを実施し、競合する植物の繁茂を抑えることが望ましい。また、園芸目的の採取の恐れがある。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	1	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



（執筆者：奥田重俊）

サクユリ

Lilium auratum var. *platyphyllum*

ユリ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ 2m になることもある。葉は互生し、幅広く大きい。花期は 7～8 月。花は白色で黄色い斑点がある。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

明るい樹林内や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取や山菜としての採取が脅威となる。道路法面などでは、道路工事や法面の緑化が脅威となる。また、本州などからのヤマユリ、カサブランカ（園芸品種）の持ち込みは、遺伝的かく乱を引き起こすおそれがある。

【関連文献】

教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会，2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	3	1	5	2	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	1	4	1	0

判定基準

E



（執筆者：上條隆志）

ノシラン

Ophiopogon jaburan

ユリ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。葉は叢生し、匍枝がない。線形で厚く、常緑で光沢がある。花茎は高さ 30～50cm、幅 4～7mm、扁平な二稜形で狭い翼がある。苞の腋に 3～8 花が下向きにつく。花期は 7～9 月。花序は長さ 7～10cm、やや密花、花被片は白色または淡紫色で広披針形、長さ約 6mm。葯は披針状線形で花糸はごく短い。1 花に 1 種子が熟し、倒卵形、コバルト色で長さ 9～10mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（東海以西）、四国、九州、南西諸島；済州島

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近の常緑広葉樹の林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺を含めた樹林環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 奥田重俊)

ナルコユリ

Polygonatum falcatum

ユリ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は太く、節間が短い。茎は高さ 50～100cm、円柱形で稜角がなく、上部は弓状に曲がる。葉は 13～17 個つき、披針形でしばしば葉の表面の中央に白い線が入る。葉の裏面の脈上に小突起がある。花期は 5～6 月。花は葉腋に 3～5 個つき、やや散房状に下垂する。花筒は緑白色で長さ 17～23mm、先の方が色が濃い。花糸は平滑である。液果は径 8～10mm で黒紫色に熟す。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（東北部）

【伊豆諸島における生育環境】

樹林の明るい林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺を含めた樹林環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

オオナルコユリ

Polygonatum macranthum

ユリ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。ナルコユリに比べて大型で、茎は高さ 80～130cm、葉は長さ 15～30cm になる。花期は 5～7 月。花は葉腋に 2～4 個がついて下垂する。花筒は長さ 25～35mm、花糸の基部は肥厚し、先を除き細突起がある。葯は長さ 4.5～5.5mm、花糸より短い。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

樹林の明るい林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺を含めた樹林環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

アマドコロ

Polygonatum odoratum var. *pluriflorum*

ユリ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。地下茎は長く横に這う。茎は高さ 35～80cm、斜上し、稜角がある。葉は長楕円形、長さ 8～10cm、平滑で裏面は粉白色を帯びる。花期は 4～6 月。花は葉腋から下垂する花柄に付き、筒形で長さ 1.5～2cm、先端が緑色を帯びる。花糸は細突起があり、葯は長さ約 4mm、花糸よりやや長い、または同長。液果は球形で濃緑色から熟して黒色となる。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

林縁のやや湿った草地の生育し、所によっては群生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林縁の過度な草刈りなどの管理により自生地が消失する可能性があるため、管理を実施する際には留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982a; 七島花の会 神津島, 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



©七島花の会

(執筆: 奥田重俊・畔上能力)

ハマサルトリイバラ ※備考 (p. 213)

Smilax sebeana

ユリ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

つる性の半低木。海岸近くに生育する。茎にはほとんどとげがない。葉は卵形で長さ 6～10cm、裏面は白色である。冬でも枯れず、巻きひげは長い。3～4月に多数の花を散形花序につける。花被片は楕円形で長さ 5mm。液果は球形で径 8mm で、黒く熟す。

【分布の概要】

伊豆諸島、九州、南西諸島；台湾

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近の落葉樹林の林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林縁の過度な草刈りなどの管理により自生地が消失する可能性があるため、管理を実施する際には留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ヤマカシュウ

Smilax sieboldii

ユリ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

つる性の半低木。茎に稜が多く、多数の細かいとげがある。葉は薄く卵形で 5 脈があり、長さ 5～12cm、幅 3～9cm、光沢がある。巻きひげは長い。花期は 5～6 月。散形花序が出て多数の花がつく。花被片は長楕円形で長さ 4～5mm、平開するが反り返らない。葯は長さ 1mm。液果は球形で、紫黒色に熟し径約 6mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

落葉樹林内や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林縁の過度な草刈りなどの管理により自生地が消失する可能性があるため、管理を実施する際には留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ホトトギス

Tricyrtis hirta

ユリ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。生育する場所により、直立型と懸崖型がある。茎は長さ40～80cm、上向きの褐色毛が密生する。葉は互生し、長さ8～15cm、長楕円形から披針形。葉腋に2～3個の花がつく。花期は8～10月。花被片は斜めに開き、長さ約25mm、白地に紫の斑点が多く、下部に黄色の斑点がある。花糸は無毛で、さく果は長さ3cm、著しい三稜がある。種子は多数。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道（西南部）、本州（関東以西、福井以南）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

草地にも生育するが、主に湿った崖地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取に対してマナー啓発を行うこと、競合する植物の除去を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



（執筆：奥田重俊・畔上能力）

シュロソウ

Veratrum maackii var. *japonicum*

ユリ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

多年草。縦にしわのある細長く大きな葉が茎の基部近くに集まり、1m近く立ち上がった茎や花茎に白色の短毛が目立つ。花期は6～7月。暗紫褐色の花が穂状となり、両性花と雄花になる。紫褐色の花被片6個は平開し、中央部分から基部に向かって盛り上がり、その厚みには変化がある。雄花は、雄しべ6個が中心から放射状に広がり、葯は橙色。両性花は、花被片中央に立ち上がった子房の先端に花柱が3裂し、雄しべ6個が子房を囲む。花被片を残したまま子房が膨らみ、その後、さく果は3つに分かれ、上向きに開く。花被片の色は、緑色、濃赤色、紫褐色に緑色が混在するなどの変異がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州

【伊豆諸島における生育環境】

山頂域の樹林内と低木林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境は良好であるが、植生遷移の進行に注意することが望まれる。

【関連文献】

七島花の会 神津島，2008d.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E+ACD



©七島花の会

（執筆：石橋正行）

キツネノカミソリ ※備考 (p. 213)

Lycoris sanguinea

ヒガンバナ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。鱗茎は広卵形で径2～4cm、外皮は黒褐色。葉は早春に出て帯状、淡緑色で初夏には枯れる。花期は8月ごろ。高さ30～50cmの花茎を立て、頂に黄赤色の3～5花を散形花序につける。花は長さ約6cm。花被は6個で斜開する。花被片は開花時、斜めに開き、反曲しない。雄しべは花被とほぼ同長。果実は球形のさく果で径15mm、よく結実する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；中国

【伊豆諸島における生育環境】

林縁や土手などの草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取に対してマナー啓発を行うこと、競合する植物の除去を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊・畔上能力)

ナツズイセン

Lycoris squamigera

ヒガンバナ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。鱗茎は広卵形で径4～5cm、外皮は黒褐色。葉は早春に伸び、帯状で粉緑色を帯び、初夏には枯れる。花期は8～9月。高さ50～70cmの花茎の先端に淡紅紫色の花が数個つく。花被片は倒披針形で長さ5～7cm、先はやや反り返る。雄しべは花被片より短い。結実しない。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

人里近くの草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

農地やその周辺に生育する場合は、自生地の保全に配慮した農作業を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

イズドコロ

Dioscorea izuensis

ヤマノイモ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

つる性の多年草。根茎は肥厚して横に這う。茎はつる性で1.5mほどに伸長し、緑色をなし、下部は紫色を帯び、上部を除き白軟毛がある。葉は互生し、三角状卵形、先は長くとがり、基部は心形で、両側は耳状に張り出す。葉質は薄い革質で、乾くと黒色に変わる。花期は7～8月。花被片は黄緑色で、平開する。花序は下垂し、雄花序は長く、雌花序は短い。さく果は扁円形。種子は全周に翼がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（伊豆半島）

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近の明るい樹林内や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路法面の改修などに際し、自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

高橋秀男, 1971; 奥山春季, 1984.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	0	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 奥田重俊)

ヒナノシャクジョウ

Burmattia championii

ヒナノシャクジョウ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

多年草。白色の小草本で菌類と共生する。高さ3～15cm、根茎は球状に膨れ、多数のひげ根がある。鱗片葉は披針形でまばらに互生し、長さ2～4mm。花期は8～10月。花は白色で柄がなく、やや頭状に集まる。花被片は6個、外片は筒状に合着し、翼がなく、裂片は三角形。内片はへら形で著しく小さい。雄しべは3個で内片の上部につく。さく果は倒卵円形、長さ2.5mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島；中国、マレーシア、インド、スリランカ

【伊豆諸島における生育環境】

主に常緑樹林内の落ち葉が堆積した林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が特定された際は、詳細な調査を行い、また、菌類と共生するため、自生地の周辺を含めた保全を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）, 1982a; 七島花の会 神津島, 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	2	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆: 奥田重俊)

シロシャクジョウ

Burmattia cryptopetala

ヒナノシャクジョウ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

多年草。純白の茎が先端近くで分岐し数個の花をつける。根元付近からも分岐し、花数が10数個前後の個体もある。葉は鱗片となり、数枚が互生する。花期は8～9月。花冠の長さは12mm。外花被片3個が合着し、上部が広い三角形の大きな翼を形成し、張り出した翼の横断面内部は空洞。外花被片先端は3裂し、わずかに開いた後、裂片中央から外側に向って山型になる。雄しべは3個で、裂片の裂け目の内側すぐ下に付着する。葯隔の左右に葯室、上端に突起があり、距はない。雌しべの柱頭は3裂し、雄しべとほぼ同じ高さに位置する。子房は卵形。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育環境が維持されれば、保全上の問題はないが、踏圧に注意することが望まれる。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2008e; 七島花の会 神津島, 2011b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



©七島花の会

(執筆: 石橋正行)

キリシマシャクジョウ

Burmattia liukuensis

ヒナノシャクジョウ科

伊豆諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。10cm前後に立ち上がり、茎は細い。花期は8～9月。花は上端の鱗片から伸びる短い花茎に1個、または2～3個に枝分かれした先端にそれぞれ1個つき、全体が白色で花被片の先端のみ黄色。花冠の長さは6mmで、先端は3裂し、わずかに開き、外側にやや反り返りながら「く」の字を描くように曲がるため、肉厚に見える。裂片のすぐ下の花筒の内面に雄しべが3個付着し、シロシャクジョウと異なり、葯隔の下に距が突き出る。雌しべ柱頭は3裂し、花柱は花筒内に隠れる。

【分布の概要】

伊豆諸島、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内の比較的風通しの良い場所や山腹の道路沿いに群生することが多い。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育環境が維持されれば、保全上の問題はないが、山道や道路整備のために生育地が消滅することもあり、注意が必要である。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2008f; 七島花の会 神津島, 2012e.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	3	2	5

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	0	0

判定基準

E+ACD



©七島花の会

(執筆: 石橋正行)

タヌキノショクダイ

Glaziocharis abei

ヒナノシャクジョウ科

伊豆諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。花期は6～7月。花冠は透明感のある白色で壺型、長さ15mm、幅7mm。花筒側面から水平に出る外花被片は3個。内花被片は反り返り、花筒の真上で3個が合着する。花筒上端の孔は六角形、6個の雄しべは下向きに折れ曲がり、中央部分から先端にかけて合着する。合着していない下部は訪花昆虫の出口になっていると思われる小さな隙間があり、花筒内面に向いた雄しべ側面に葯が2個付着する。柱頭は2裂し、雄しべと相対し、花筒が落下すると露出する。地表に現れた部分の根は白色で、枝分かれした枝分かれした根茎の先端に、鱗片とほぼ同長の短い茎を立ち上げる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内の、湿潤で他の菌根植物も多数生育する環境に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地は人為的影響を受けやすいため、現在の生育環境を維持することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2008d; 七島花の会 神津島, 2010f.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

(執筆者: 石橋正行)

ハナビゼキショウ ※備考 (p. 213)

Juncus alatus

イグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ20～40cm、根茎は匍匐し節間は短い。茎は二稜形で広い翼がある。葉は剣状線形、扁平で幅4～5mm、多管質で隔壁は明らかである。葉耳は小さい。花期は5～7月。頭花は半球形で4～7花からなる。花被片は披針形。雄しべ6個。さく果は三稜ある長卵形、赤褐色で光沢があり、花被片より長い。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州; 朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田近くにおいて外来植物の草刈りなどの管理を行うことや、自生地の湿地に富栄養な水が流入することを避けることで、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

(執筆者: 奥田重俊・畔上能力)

タチコウガイゼキショウ

Juncus krameri

イグサ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は短く匍匐し、節間は短い。茎は円筒状で直立し、高さ 30～60cm、径約 2mm、葉は 2～3 枚あり、円筒状、単管質で隔壁は著しく明瞭である。葉は花序よりも短い。花期は 8～9 月。花穂は多数の頭花からなる。頭花は 3～10 花からなり、花被片は細くとがり緑褐色。雄しべ 6 個。さく果は三稜楕円形、やや鈍頭で、花被片より少し長く、やや質が厚い。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国、ロシア

【伊豆諸島における生育環境】

湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田近くにおいて外来植物の草刈りなどの管理を行うことや、自生地の湿地に富栄養な水が流入すること避けることで、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊・畔上能力）

ホシクサ

Eriocaulon cinereum

ホシクサ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

一年草。葉はロゼット状に束生し、線形で長さ 3～8cm、幅 1～2mm。花茎は高さ 4～15cm、基部に筒状の鞘がある。茎頂に球形で径 4mm ほどの頭花をつける。花期は 8～9 月。葯は白色。総苞片は灰白色、膜質、少数の雄花と多数の雌花が混生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、中国、インドネシア、インド、アフリカ、オーストラリア

【伊豆諸島における生育環境】

水田や湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田近くにおいて外来植物の草刈りなどの管理を行うことや、自生地の湿地に富栄養な水が流入すること避けることで、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

（執筆：奥田重俊・畔上能力）

ヒロハインノヒゲ ※備考 (p. 213)

Eriocaulon robustius

ホシクサ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

一年草。葉はロゼット状に多数束生し、時には倒円錐形の短い茎をつけ、線状披針形で長さ10～17cm、幅5～10mm。9～17脈の格子状。花茎は多数、不同長で高さ5～20cm、少しねじれる。鞘は長さ4～7cm。花期は8～10月。頭花は半球形で径7～9mm、多数の花からなり、花床は通常毛がなく雄花と雌花がある。萼は上部に短毛を疎生する。普通総苞片は花より短い。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

水田に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田近くにおいて外来植物の草刈りなどの管理を行うことや、自生地での湿地に富栄養な水が流入することによって、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

(執筆: 奥田重俊・畔上能力)

イズノシマホシクサ ※備考 (p. 213)

Eriocaulon zytanii

ホシクサ科

伊豆諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

一年草。葉は叢生し、多数の茎を順次立ち上げ、一斉に開花する。花期は8月中～下旬。頭花は1本の茎に1個つき、総苞片は4～6個で頭花より長く、長短交互あるいは不揃いの個体が多い。芽出しのころの総苞片は線状で、次第に幅が広くなり被針形となる。頭花には雄花と雌花が多数あり、ともに3個の萼片と3個の花弁を持つ。葯は黒く、1花に6個、柱頭は白色で3裂する。雌花の花被片は離生し、基部が合着する雄花の花被片よりやや長い。子房は球状で縦3つに割れるさく果となる。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

低木林内の窪地の雨水がたまった貧栄養な湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

スギゴケ、チゴザサの繁殖により自生地が次第に失われている。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2007a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	0	0	0

判定基準

E+ACD



© 七島花の会

(執筆: 石橋正行)